

5月20日 全校朝会

皆さんが積み上げてきた、たくさんの努力や我慢の成果で、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言は、新潟県をはじめ多くの県で解除されました。すべてが元通りになったわけではありませんが、私は4月21日の臨時全校朝会以来、再び全校生徒の皆さんの前でこうして話ができることを幸せだと感動しています。

さて、人類がこれまで戦ってきた2つのウィルスについて、話をします。

一つ目は天然痘ウィルスです。天然痘ウィルスの感染によって引き起こされる天然痘は、致死率も感染率も極めて高い恐ろしい感染症でした。記録によると、人類は紀元前から天然痘ウィルスと戦ってきました。1770年のインドの流行では300万人が死亡したという記録も残っています。

しかし、人類はその後、天然痘ウィルス感染予防のワクチンを開発します。ワクチンの摂取が進み、WHO（世界保健機構）は、1980年5月天然痘の世界根絶宣言を行いました。以降これまでに世界中で天然痘患者の発生はありません。

二つ目はインフルエンザウィルスです。インフルエンザも恐ろしい感染症です。人類が、まだインフルエンザウィルスの詳細を突き止めていなかった1918年から1920年に世界中で大流行（いわゆるパンデミック）が起きました。当時はスペイン風邪と呼ばれ、当時の世界人口が15億人程度であったのに対して、スペイン風邪感染者は5億人、死亡したのは2000万人から4500万人と言われています。

現代でも人類は、インフルエンザウィルスを根絶できていません。その理由の一つは、インフルエンザウィルスは、人だけでなく、鳥や豚、馬など地球上の多くの動物に感染するからです。鳥インフルエンザに、人は特別な例を除いて感染しません。人のインフルエンザにも鳥は感染しません。しかし、豚は両方のインフルエンザに感染します。そして豚の体内で両方のウィルスが変異して、人に感染する新型インフルエンザが生まれることがあるのです。

では、人類はインフルエンザウィルスに勝てないのでしょうか。違います。インフルエンザ予防のワクチンや、インフルエンザを発症してしまったときにウィルスの増殖を抑える薬が開発されています。また、発症してから5日かつ熱が下がってから2日たつと、インフルエンザウィルスは他の人に感染する力を失っていることが分かっています。ですから、私たちは、予防接種を受けたり、学級閉鎖したりすることで、インフルエンザウィルスと共生しながらも戦っているのです。

話を新型コロナウイルスに戻しましょう。残念ながら、人類はまだこの新型コロナウイルスの詳細を突き止めていません、予防のためのワクチンや治療薬も現在懸命に開発中です。

では、それらができるまで、子供は学校を休み、大人は仕事をしないではないのでしょうか。

5月11日の放送で話した通り、皆さんの学びを止めるわけにはいきません。ですから、本日から通常登校を再開します。しかし、例えば「大切な人にうつさないために、インフルエンザは熱が下がってから2日間は学校を休む」という約束があるように、自分の命、人の命、大切な人の命を守るために、新型コロナウイルス感染予防のため、感染拡大予防のために、みんなで協力し支え合い、励まし合いながら、生活様式を変えていかなければなりません。

板倉中学校では、どのような「約束」をして、どのような「新しい学校生活様式」で、命を守りあうのか、このあと、具体的な話があります。一人一人が板中生の自覚をもって、確実に「新しい学校生活様式」を守り合い、明るい未来につなげましょう。